



サルスベリ（猿滑）

木肌が滑らかで、木登りを得意とする猿でさえ滑り落ちそうになるためサルスベリ——。とてもユニークな名前がついていますが、これは成木になると幹の樹皮が部分的に薄くはげ、滑らかになる特徴を表したものです。

サルスベリは花期が長く、7月頃から枝が弧を描くほど花が密集した状態で咲き続け、9月頃までもその華麗な姿を楽しむことができます。そのため百日紅ひゃくじつこうとも呼ばれていますが、花の色は紅色ばかりでなく、白や紫もあります。

原産の中国では、宮中に植えられる花とされており、日本で神社や寺などで多く見られるのは、これに習ったものと言われています。

「萩の花既に散らくも彼岸過ぎ
猶なほ咲き残るさるすべりかも」

正岡子規